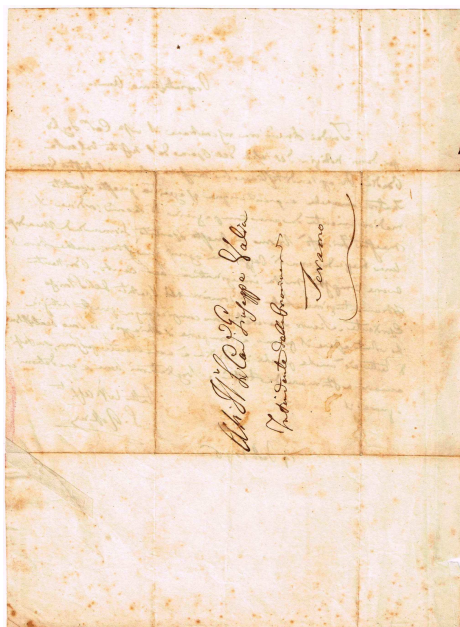


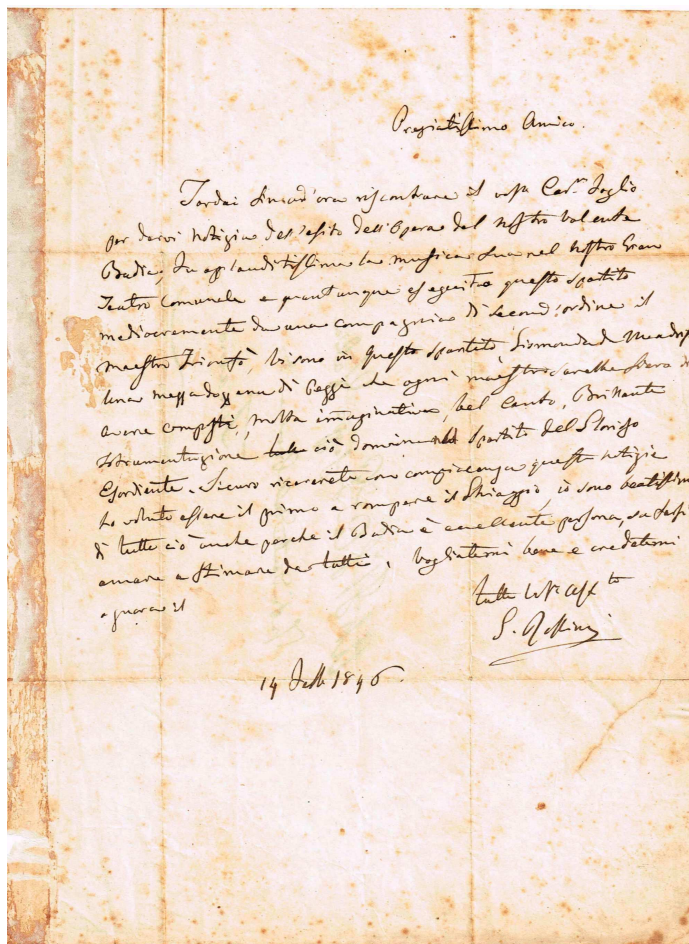
## ロッシーニの自筆書簡 1846年2月14日付

(水谷彰良コレクションより)

ロッシーニの自筆書簡 テーラモのジュゼッペ・ヴァーリア宛、1846年2月14日付



裏面



A Giuseppe Valia (Intendente di Teramo),  
Lettera autografa firmata di Gioachino  
Rossini Bologna, 14 Febb 1846.

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

### 解説

これは写しの内容(下記)が誤って1847年のものとして文献で引用され、オリジナルの所在が不明だった書簡である。正しい日付は1846年2月14日、用紙サイズは27×20 cm、宛名は裏面に書かれている。

同年2月10日にボローニャのコムナーレ劇場で初演された新人作曲家ルイージ・バディーア(Luigi Badià, 1819-99)のデビュー作《メンドリージョのジスモンダ》(*Gismonda di Mendrisio*) (3幕のトラジェディヤ・リーリカ)の成功をテーラモのアブルッツォ・ウルテリオレ・プリーモの行政長官ジュゼッペ・ヴァーリア(Giuseppe Valia, 1844~48年在職)に報告する書簡で、バディーアの父はその部下とされている。

ルイージ・バディーアはテーラモで生まれ、ナポリの王立音楽学校でジンガレリに師事した。その後、教師メルカダンテと折り合いが悪く1840年にナポリを去り、ローマを経てテーラモに帰郷、同地の劇場で指揮者として活動するかたわら最初のオペラ《メンドリージョのジスモンダ》を作曲した。これがボローニャで初演された経緯は不明だが、前記テーラモの行政長官の求めでロッシーニが後援した可能性があり、この手紙の中で二流のマエストロの凡庸な歌手団による演奏ながら「大成功」を収めたと報告し、「楽曲の半ダースはこれを作曲したどんなマエストロも誇りとするもので、豊かな想像力、ベル・カント、輝かしい管弦楽法のすべてが栄光ある新人の楽譜の中で支配しています」と称賛している。ロッシーニは「ベル・カント」の語を今日的な意味で最初に用いた一人として知られるが、この手紙のそれが最初の使用と思われ、その意味でも貴重な書簡である。

(2014年11月作成。水谷彰良)